

# 消費の低迷や価格競争が続く中、政府に対し重点テーマとして 8割近く（78.9%）が「景気対策」を望む

- ★ 「当面の経営上の問題点（複数回答）」について、1位が「需要の停滞」の179社。2位が「取引条件の悪化」の53社。「大企業の進出による競争の激化」と「ニーズの変化への対応」が51社で3位。
- ★ 「現在の雇用人員」について、74.4%（174社）が「適正」と回答。「不足」が20.1%（47社）で、「過剰」が5.6%（13社）。これまでより「不足」割合が高くなりつつある。
- ★ 「従業員に冬のボーナス（賞与）を支給しましたか？」について、140社（61.9%）が「支給した」と回答。86社（38.1%）は「支給しない」

平成24年10～12月期 三次商工会議所管内（旧三次市）景況調査【概要】

## 三次商工会議所

平成25年1月に実施した第91回三次商工会議所管内（旧三次市）景況調査の結果は次のとおり。本調査は、三次商工会議所管内（旧三次市）の企業を対象に四半期ごとに実施するもので今回が91回目。市内の500事業所を抽出し、集計企業数は240社（小売業68社、卸売業26社、製造業42社、建設業62社、運輸・交通業15社、観光・サービス業27社）で回収率は48.0%。

### 【概況】

今期（10～12月）の調査結果を見ると、自分の事業所の状況をどう見ているかを示す業況D.Iは、全業種平均で▲5.5と、3ヶ月前の前回調査▲から15.7ポイント改善した。業況が「かなり好転」と答えた事業所が全体の2.5%、「やや好転」が20.2%で、逆に「やや悪化」が23.1%、「かなり悪化」が5.0%だった。同様に、売上D.Iも21.9ポイント改善して0.0。採算D.Iも21.4ポイント改善して▲12.2。原材料（商品）仕入価格は24.1から19.8と3ヶ月前に比べやや下降傾向。業況、売上、採算とも依然としてマイナス数値を示しているが、過去15年間の中では、かなりの高水準となった。

ただ、業種別にみると、小売業と観光・サービス業といった個人消費関連がさえず、個人消費の先行きに不安を残した。また、製造業では売上D.Iこそ大幅改善しているものの、業況D.I、採算D.Iは思ったほど改善していない。これは、他業種に比べ、原材料仕入価格の上昇値が高く、仕入値の上昇分を製品価格に十分に転嫁できていないことが影響していると思われる。

今回事業所に対し、「今後、政府に対し、最も重点をおいて取り組んでほしいテーマ（政治課題）」について尋ねたところ、「景気対策」が8割弱の187社（78.9%）と最も多かった。それに続くのが「財政再建」（12社）、「税制改革」（7社）と、個人消費の低迷や所得の減少などが続く中、景気対策を望む声が強まった。

### ※ DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を示す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

業況DI (好転割合) - (悪化割合)

売上DI (増加割合) - (減少割合)

採算DI (好転割合) - (悪化割合)

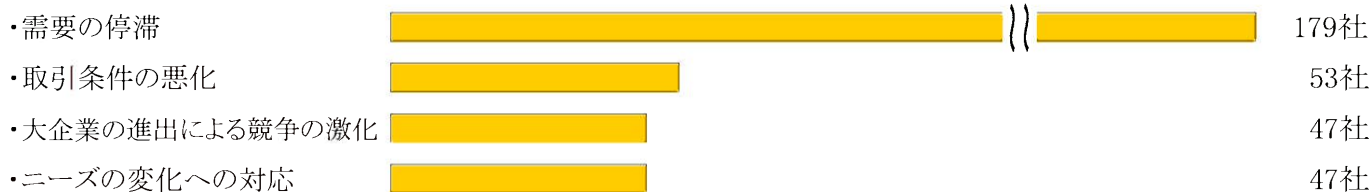
**業況**は、全業種合計で今期▲5.5。業種別では、改善幅に差があるもののすべての業種で改善。中でも、卸売業が3.8、建設業が9.7と、この2業種でプラスの値を示した。しかしながら、先行き見通しは▲28.5と、運輸・交通業を除く5業種が悪化すると予想しており、本格的な回復はまだ先か。

**売上**は、全業種合計で今期0.0。業種別では、業況同様、すべての業種で改善。売上が増加したと回答した企業67社のうち、最も多かったのが「季節的な増加」（30社）。以下、「企業（経営）努力」（17社）、「取引先の好転・増加」（7社）と続く。

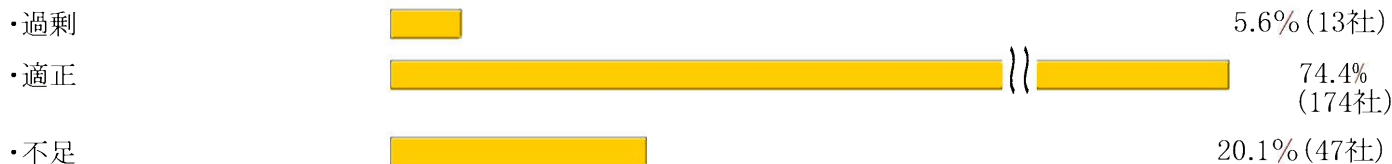
**原材料（商品）仕入価格**は、全業種合計で今期19.8。回答企業数は少ないものの、運輸・交通業で57.1と他の業種に比べ、群を抜いて高い。

**採算**は、全業種合計で今期▲12.2。業種別では、業況、売上同様、すべての業種で改善。建設業が1.6、運輸・交通業が7.1とこの2業種がプラス値。D.I値がマイナス10台まで改善したのは、平成8年10～12月期（▲18.9）以来、16年ぶりのこと。

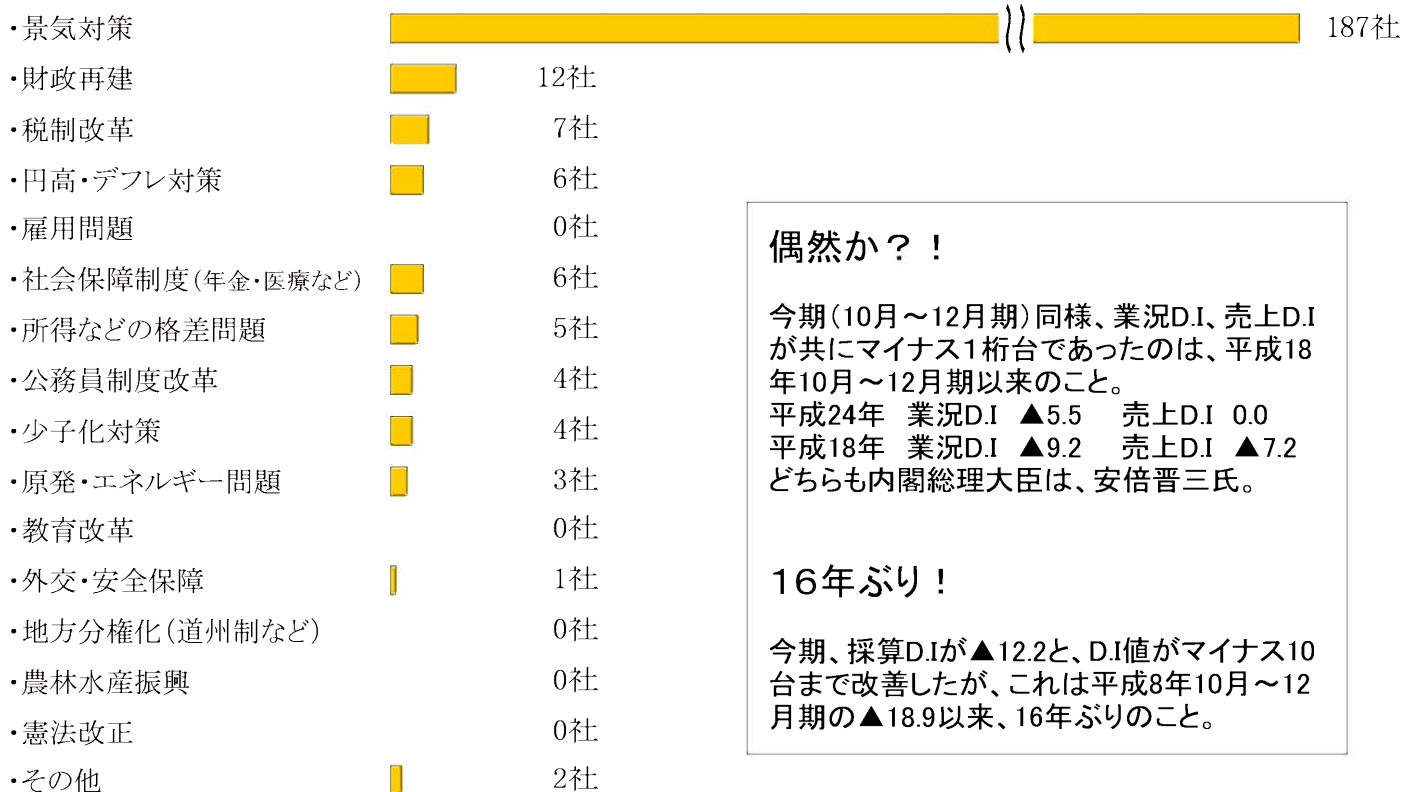
【当面の経営上の問題点】(上位三項目・複数回答)



【現在の雇用人員をどのようにお考えですか？】



【今後、政府に対し、最も重点をおいて取り組んでほしいテーマ(政治課題)は？】



偶然か？！

今期(10月～12月期)同様、業況D.I、売上D.Iが共にマイナス1桁台であったのは、平成18年10月～12月期以来のこと。  
 平成24年 業況D.I ▲5.5 売上D.I 0.0  
 平成18年 業況D.I ▲9.2 売上D.I ▲7.2  
 どちらも内閣総理大臣は、安倍晋三氏。

16年ぶり！

今期、採算D.Iが▲12.2と、D.I値がマイナス10台まで改善したが、これは平成8年10月～12月期の▲18.9以来、16年ぶりのこと。

【従業員に冬のボーナス(賞与)を支給しましたか？】



※百分率は有効回答数を分母として算出

【業況DI】

	前期に比べ	来期見通し
全業種	▲ 5.5	▲ 28.5
小売業	▲ 17.6	▲ 29.4
卸売業	3.8	▲ 20.0
製造業	▲ 11.9	▲ 34.1
建設業	9.7	▲ 26.2
運輸・交通	0.0	0.0
サービス業	▲ 12.0	▲ 48.0

(好転割合－悪化割合)

【売上DI】

	前期に比べ	来期見通し
全業種	0.0	▲ 28.7
小売業	▲ 16.7	▲ 30.3
卸売業	7.7	▲ 24.0
製造業	▲ 2.4	▲ 32.5
建設業	19.4	▲ 22.0
運輸・交通	14.3	▲ 28.6
サービス業	▲ 15.4	▲ 38.5

(増加割合－減少割合)

【採算(営業利益)DI】

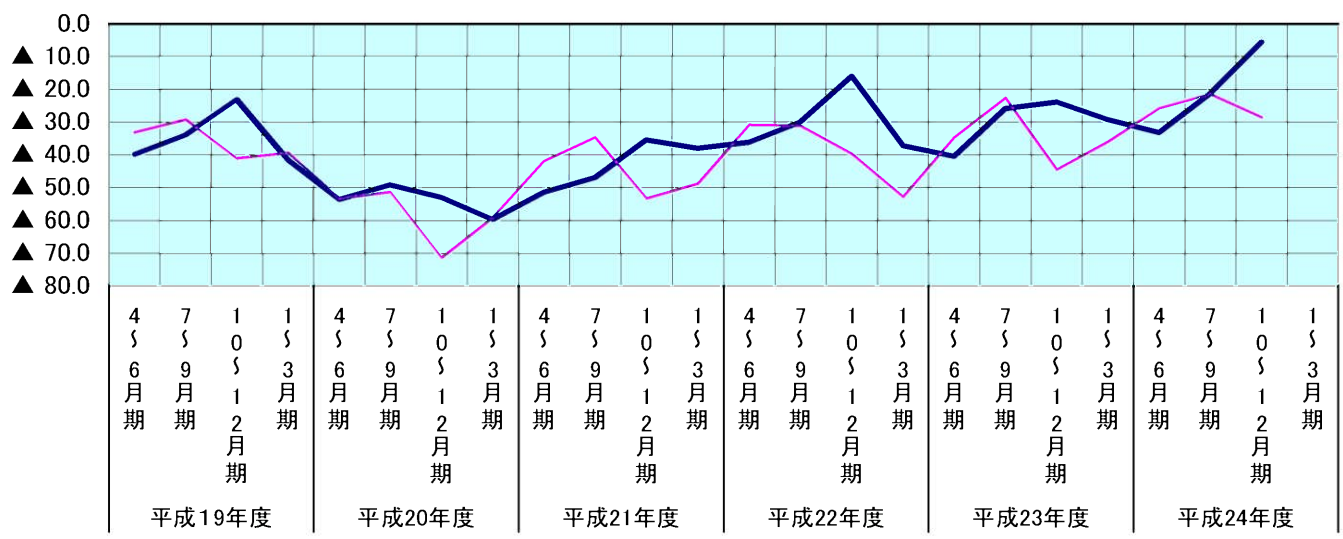
	前期に比べ	来期見通し
全業種	▲ 12.2	▲ 34.2
小売業	▲ 28.4	▲ 40.3
卸売業	0.0	▲ 28.0
製造業	▲ 16.7	▲ 32.5
建設業	1.6	▲ 33.9
運輸・交通	7.1	▲ 28.6
サービス業	▲ 19.2	▲ 30.8

(好転割合－悪化割合)

# 全業種

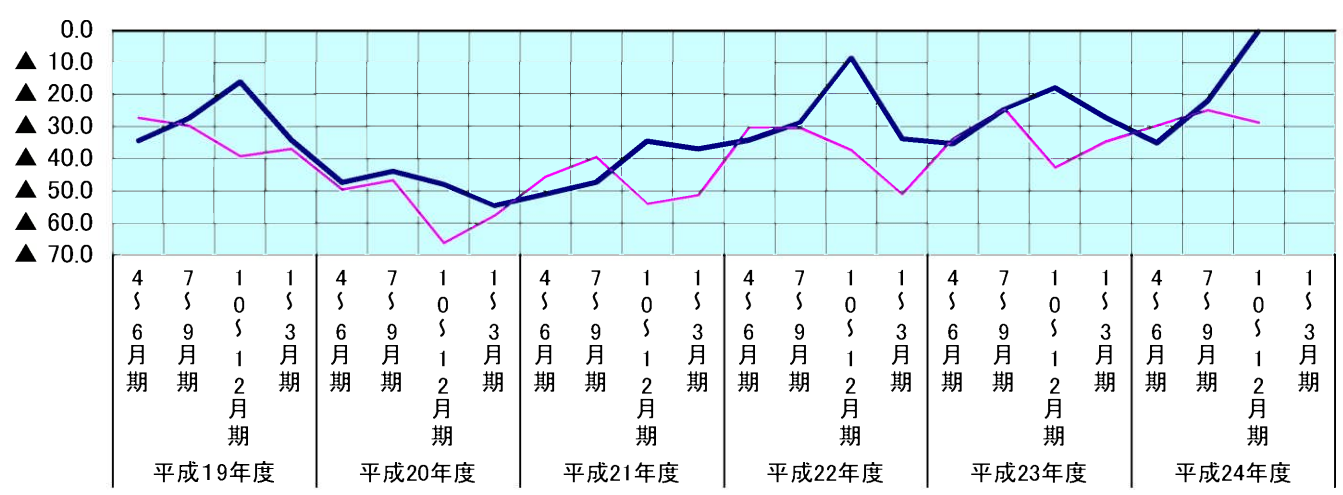
## 業況D.I.の推移

前期比 来期見通し



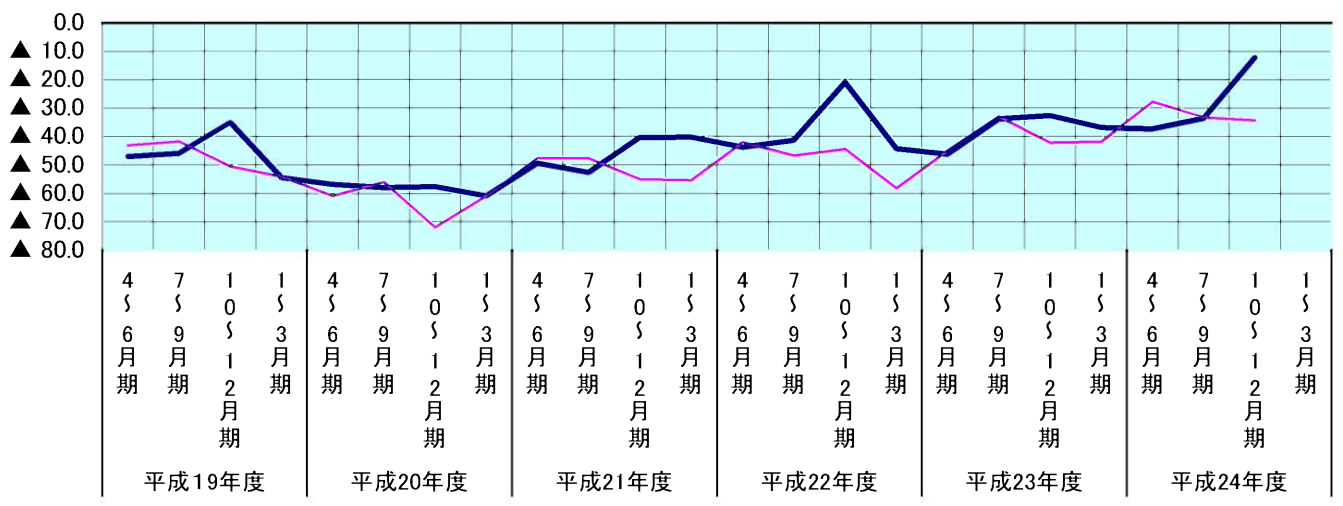
## 売上D.I.の推移

前期比 来期見通し



## 採算D.I.の推移

前期比 来期見通し



【景気天気図】

業 種	項 目	業 況	売 上	採 算
小 売 業	10月～12月 実 績			
	1月～3月 見 通 し			
卸 売 業	10月～12月 実 績			
	1月～3月 見 通 し			
製 造 業 (工 業)	10月～12月 実 績			
	1月～3月 見 通 し			
建 設 業	10月～12月 実 績			
	1月～3月 見 通 し			
運 輸・交 通 業	10月～12月 実 績			
	1月～3月 見 通 し			
観 光 サ ー ビ ス 業	10月～12月 実 績			
	1月～3月 見 通 し			

景気天気図の説明					
大変良い	良い	まあまあ	少し悪い	悪い	大変悪い